



經典餘師

書經

二

□ 11
2047
19



2047
19

夏書

禹貢

禹土と敷山と隨
大川と奠冀州
既壺口と載
梁及岐と治
既大原と修
岳陽于至
覃懷于績
底于衡漳于至

夏書

夏禹の御代と有る其御代の記録是

禹貢

禹王天下此年

禹敷土隨山刊木奠高山大川冀州

既載壺口治梁及岐既修太原至于

岳陽覃懷底績至于衡漳

時洪水と治り天下の土地を敷り九州と

山大川とあり冀州の壺口山の下より載り東より西へ

り梁山岐山と治め其の中央へひく大原へ出

て土地と修理し大岳と霍大山と

經典餘師

書經卷之二

一

厥土白壤厥賦惟上錯厥田惟中中

恒衛既從大陸既作鳥夷皮服碣石夾右河于入

畎等とくりたりく績と厥とけりる衛
障の水まわく修理し至く少あり
○厥土

惟白壤厥賦惟上錯厥田惟中中

天打と治る法民の田農を先と以て氓世愚あつた
も貧乏寒餓を此うまへるを教訓と守りて禹
王大徳と以て天下の土地性を五等あり賦の第
つたれと壤とくも色をちりて賦とい米穀のけりた
一と第二とまじりて田の性の中の中これ第三段

恒衛既從大陸既作鳥夷皮服碣石夾右河于入

衛既從大陸既作鳥夷皮服碣石夾右河于入

石入于河 恒の水衛の水此ふり川の川水ふと

くく大陸とくく廣野の田地まわく耕作うまへ
きやうに水のかさまり海中よりけり鳥の夷人も帰
服し皮を衣服と貢税して王朝へさしつて
碣石山と右ありて黄河末入り入る

○濟河惟兗州九河既道雷夏既澤

灘沮會同桑土既蠶是降丘宅土

濟河惟兗州九河既道雷夏既澤灘沮會同桑土既蠶是降丘宅土

東南のうへに濟河あり西北に黄河ありて黄河の末
東へ出て九派とわたり洪水かきまわらぬり道と
分りつて是と雷夏とる灘と沮との二の川も會同
沢とる是と雷夏とる灘と沮との二の川も會同
なりて此沢にるがわたりて水かきまわらぬり
人々る高丘より降る平地に宅とるも蠶とやうい
桑とる

○厥土黑墳厥草惟條厥田惟中下厥賦負作十有三

惟條厥田惟中下厥賦負作十有三

載乃同厥貢漆絲厥篚織文浮于濟

潔達于河 此土の色は黒く土の性墳とる
煙草とる土の性墳とる

絲厥筐織文濟
漂于浮于河干
達す

海岱惟青州
嵎夷既畧
濰淄其道厥
土白墳海濱廣
斥厥田惟上
厥賦中上厥貢
鹽締海物惟錯
岱畎絲泉
鉛松怪石萊
夷牧作厥篚

此所の草絲や木も條長し田の位は第
六段なれど中乃下りたりて其の賦は
ややくうすなりとて他國の例より上
十の納貢と漆のこの絲も織文とあり
筐入りて上納す濟河の漂は氣ト黄河より
のりて三城へり
○海岱惟青州嵎夷既

畧濰淄其道厥土白墳海濱廣斥厥
田惟上下厥賦中上厥貢鹽締海物
惟錯岱畎絲泉鉛松怪石萊夷作牧
厥篚壓絲浮于汶達于濟
○青州のこゝ
魯國の泰山の岬夷の地乃方角と略省

厥筐壓絲
汶于浮于濟
達す

海岱及淮惟
徐州淮沂其
父蒙羽其藝
大野既豬東
原平と底と厥
土赤墳墳草木

海岱及淮惟徐州淮沂其父蒙羽其藝
大野既豬東原平と底と厥土赤墳墳草木
の川より濟の川
○海岱及淮惟徐州淮
沂其父蒙羽其藝大野既豬東原底
平厥土赤墳墳草木漸包厥田惟上
中厥賦中中厥貢惟土五色羽畎夏

漸包一厥田惟上
 の中厥賦の中の中
 厥貢惟土五色羽
 畎の夏翟嶧陽の
 孤桐泗濱の浮磬
 淮夷の蠙珠暨魚
 厥篚玄纁編多
 淮泗干浮んで河
 于達す

淮海惟揚州
 彭蠡既豬
 陽鳥の居攸三江

陽鳥の居攸三江
 既入震澤底定
 篠簜既敷厥草
 惟天厥木惟喬
 厥土惟塗泥厥田
 惟下下厥賦
 惟上上錯
 厥貢惟金三品
 玉帛羽毛惟多
 卉服厥篚織
 貝厥包橘柚
 錫貢于江海
 于達す

翟嶧陽孤桐泗濱浮磬淮夷蠙珠暨
 魚厥篚玄纁編浮于淮泗達于河

淮海惟揚州彭蠡既豬陽鳥攸居
 既入震澤底定篠簜既敷厥草
 惟天厥木惟喬厥土惟塗泥厥田惟
 下下厥賦下上上錯厥貢惟金三品
 玉帛羽毛惟多卉服厥篚織貝厥包
 橘柚錫貢于江海于達す

三三既入震澤底定篠簜既敷厥草
 惟天厥木惟喬厥土惟塗泥厥田惟
 下下厥賦下上上錯厥貢惟金三品
 玉帛羽毛惟多卉服厥篚織貝厥包
 橘柚錫貢于江海于達す

經典食部

書經卷之二

三

荆及衡陽惟
 荆州江漢海于朝
 宗九江孔殷沱
 沱潛既道
 雲土夢
 又土作
 土惟塗泥厥田
 惟下中厥賦
 上之厥貢
 毛齒草惟金三品

田地一第六之賦稅七之瑶琨
 貢ののき金銀はを糸乃三と瑤琨
 玉象の齒犀兕草の羽毛くすの木
 南海の島多びと舟服と上納は筐の
 織ものたう貝あり包のの襦袖あり
 命ト錫のの上貢ありの
 海より江に沿く淮と泗の
 河とより南河の川より洛の

○荆及衡陽
 惟荆州江漢朝宗于海九江孔殷沱
 沱既道雲土夢作又厥土惟塗泥厥
 田惟下中厥賦上下厥貢羽毛齒草
 惟金三品柶榘栝柏礪砥磬丹惟菌
 簠楛三邦底貢厥名包匭菁茅厥篚

柶榘栝柏礪砥磬
 丹惟菌簠楛三邦
 厥名と底貢と包
 匭菁茅厥篚の
 玄纁璣組九江
 大龜と納錫と江
 沱潛漢于浮んで
 洛于逾て南河于
 至る

荆河惟豫州伊
 洛瀍澗既于河于

玄纁璣組九江納錫大龜浮于江沱
 潜漢逾于洛至于南河
 南の江と漢の二の川も此くもとく海へ
 入あり大小名の天子は朝宗とくも九江
 洞庭のこも水あり水のこも殷のこも
 沱と潜は二乃川も道は舟より雲の沢も本
 の水の中の高の土あり夢の沢も又ま
 農作もてこもこも此処の土もこも
 下の中は賦も第三の位あり貢の鳥の
 羽毛象齒けの草金銀はを糸乃三と瑤琨
 朱菌簠楛此の草金銀はを糸乃三と瑤琨
 此名物なり又みんくも酒とまも草日茅玄
 纁璣組といつても匭包は外九江よ
 沱と潜と漢とよりの川より洛の
 地をさへる南河の川より洛の

○荆河惟豫

入榮波既猪導
 荷澤と導すは蓋
 猪に被らじ厥
 土を惟壤あり下
 土墳壚厥田と惟
 中の上厥賦上中
 と錯少厥貢と漆
 泉締紵厥篚の
 織績あり錫り
 て磬錯と貢とい
 洛于浮んで河于
 達す

州伊洛瀍澗既入于河。榮波既猪導。
 荷澤被孟猪厥土惟壤下。土墳壚厥
 田惟中上。厥賦錯上中。厥貢漆泉締
 紵。厥篚織績。錫貢磬錯。浮于洛。達于
 河。
河。豫州の国乃西南と荆山まじく之の川と荆
 河。河より北はみここの黄河なり伊水洛水瀍水
 澗水の四は川も黄河より入りて外へは出さ
 り。この河は被らじ。此処の土を壤とす。又下は土地
 の位を中の上とす。賦税を上中とす。此
 らの織績は上へ乃貢り。磬の漆と泉と締り。此
 の位を中の上とす。賦税を上中とす。此
 らの織績は上へ乃貢り。磬の漆と泉と締り。此

華陽黒水惟梁
 州岷嶓既道
 藝沱潛既道
 蔡蒙旅平。和
 夷績と底す厥土
 青黎厥田。惟
 下の上厥賦。下
 中三錯と

厥貢。鏐鐵銀鏤
 磬磬熊羆狐狸
 織皮。西傾桓。因
 是來。潛于
 浮んで汚于逾

經典餘師

書經卷之二

六

命と錫り。洛水より舟と。華陽
 黒水。惟梁州。岷嶓既道。藝沱潛既道。蔡
 蒙旅平。和夷底績。厥土青黎。厥田惟
 下上。厥賦下中三錯。
梁州の土地と華山
 乃陽より西を
 黒水より岷嶓山は此の田地の藝
 ののちを沱と潜との二水も水なり。此の蔡
 山蒙山は此の山乃旅ののの平に和夷の
 土地より治る。此績と底りの此所の土の黎
 く青の田畠の下の上の年貢。厥貢鏐
 と下と中と三錯といふ。

鐵銀鏤磬磬。熊羆狐狸織皮。西傾。桓
 是來。浮于潛。逾于汚。入于渭。亂于

渭于入河于亂

河貢之玉瑇瑇之鐵之銀之鑄之矢之磐之磬之織

黑水西河惟雍

○黑水西河惟雍州

涇渭内屬

弱水既西涇屬渭内漆沮既從

漆沮既從

攸同荆岐既放終南惇物至于鳥鼠

荆岐既放

原隰底績至于猪野三危既宅三苗

南惇物至于鳥鼠

丕叙

于至原隰績

既

底于猪野于至

三苗丕叙

三危既宅

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

三苗丕叙

經典餘師

書經卷之二

一七

厥土惟黃壤厥

田惟上上厥賦中下厥貢惟球

惟球琳琅玕

于積石至于龍門西河會

龍門西河于至

于渭内

渭内于會

于渭内

織皮崑崙折支

渠搜西戎即叙

渠搜西戎即叙

皮崑崙折支渠搜西戎即叙

經典餘師

皮崑崙折支渠搜西戎即叙

經典餘師

皮崑崙折支渠搜西戎即叙

經典餘師

皮崑崙折支渠搜西戎即叙

經典餘師

の三国を比西乃戎は名あり獸の皮乃衣服あり
ひり毛の織りの衣貢とす天子より帰服して
來朝と西戎の地叙王
化りまてていふあり ○導岍及岐至于荆

岍及岐と導て荆
山于至河于逾
壺口雷首より太

山逾于河壺口雷首至于大岳底柱

岳于至底柱枋
城より王屋于至

柝城至于王屋太行恒山至于碣石

太行恒山より
碣石于至海

入于海 乃下河と逾又壺口雷首を

西傾朱圍鳥鼠
至太華于至熊

歷大岳又底柱柝城より王屋山の方え
つる此三山を冀州の南より太行

耳外方桐栢より
陪尾于至

于陪尾 西傾朱圍鳥鼠の三山を雍州より
南より太行大華山の南より

嶓冢と導びきて
荆山于至内方よ

嶓冢至于荆山内方至于大別

岷山之陽より衡山
于至九江と過

之陽至于衡山過九江至于敷淺原

弱水と導びきて
合黎于至餘波

導弱水至于合黎餘波入于流沙

流沙于入
三危于至南海

至于三危入于南海導河積石至于

導

導

導

導

導

導

導

導

導

導

導

導

導

導

導

導

于入河導比至積石龍門于至南華陰于至東底柱于至又東孟津至東洛汭過大伾于至北降水過大陸于至又北播者九河為同逆河為海于入嶓冢樣導比東流漢為又東滄浪乃水為三澨過

龍門南至于華陰東至于底柱又東至于孟津東過洛汭至于大伾北過洛水至于大陸又北播為九河同為逆河入于海嶓冢導漾東流為漢又東為滄浪之水過三澨至于大別南入于江東匯澤為彭蠡東為北江入于海黑水之北南三危之南黃河導比積石龍門山又東華陰山孟津乃東比底柱山又東滄浪乃水過大陸三澨又北播九河

大別于至南江于東匯澤彭蠡為東北江為海于入岷山江導比東別七沱為又東澧于至九江過東陵於至東也北會匯為東中江為海于入沅水導比東流濟為河于入滄梁為東陶丘北于出又東荷于至又東北

導江東別為沱又東至于澧過九江至於東陵東也北會為匯東為中江入于海導沅水東流為濟入于河溢為滄東出于陶丘北又東至于荷又東北會于汶又北東入于海導淮自桐柏東會于泗沂東入于海導潯自

て汶于會一又北
東して海于入淮
と導すと桐柏自す
東泗沂于會一東
して海于入溜と
導くと鳥鼠同
穴自一東豊于
會す又東涇于會
一又東して漆沮
と過て河于入洛と
導くと熊耳自
す東北澗瀍于會
一又東して伊于
會一又東北河于
入

鳥鼠同穴。東會于豊。又東會于涇。又
東過漆沮入于河。導洛自熊耳。東北
會于澗瀍。又東會于伊。又東北入于
河。
河 豊と川の名なり。東陵の地乃名なり。匪も水也。
陶丘と地也。名なり。荷の沢あり。汶の水也。名なり。
桐柏と山なり。泗も沂も水なり。溜も川なり。鳥鼠
同穴。山の名なり。鳥と兎と雌雄とあり。同穴
涇も川なり。洛も川なり。熊耳も山なり。澗瀍水
伊水も川なり。河も黄河なり。天下の川あり。漢も
大なる外に長き二万里余あり。漢も
時、星宿海より出たり。崑崙山より出たり。

九州同と攸四隩
既宅九山刊
旅九川源と滌
九澤既陂
四海會同す

○九州攸同四隩既宅九山刊旅九
川滌源九澤既陂四海會同
と分ちて九州の州とす。水とあり。海あり。又九
州の山は木と刊。九の沢は山と旅。泉の源と滌。お
とす。便に九州の沢。陂をたづねて水とす。海あり。

六府孔修
度土交正財賦
と底慎成三壤
を則賦と中
邦成

○六府孔修度
土交正底慎財賦成則三壤成賦中
邦。水、火、金、木、土、穀の六府あり。修りて之を
正しく。貨財賦貢の入と慎んぶ。とげ。度土交り。
と則く。賦と中邦。異域

錫土姓
祗台德
祗ん先とせ

○錫土姓祗台德
錫、土の姓なり。祗、台、徳、とす。

朕行と距不

五百里ハ甸服百
里賦總と納二
百里ハ銓と納三
百里ハ結と納服
寸四百里ハ粟五
百里ハ采五百里
候服百里ハ采
二百里ハ男邦三
百里ハ諸候五百
里綏服三百里ハ
文教と揆二百里

先不距朕行

天子より土地とたすの国と立
姓と命と天子

身と地の身乃徳と祗と人先づら示
りしとたすれ法とたす人先づら示

五百里甸服百里賦納總二百里

納銓三百里納結服四百里粟五百里

采五百里侯服百里采二百里男邦

三百里諸候五百里綏服三百里揆

文教二百里奮武衛五百里要服三

百里夷二百里蔡五百里荒服三百

里蠻二百里流

天子の邦乃畿内と千
里四方とさめく中国と

武衛と奮五百
里要服三百里
夷二百里蔡五
百里荒服三百
里蠻二百里流

各づけをれ外と多いをくふと右邦畿千
里とらんと王城と中東西南北ハ五百里
外ハ五百里と五段分ち王城より百里の地
年具と刈りて稲とすのち納りて總て
のちとすその次ハ百里とすその次
と半分り銓と納りて又その次ハ百里
と藁乃あり皮とす此結と名づく又その次
ハ百里と粟とすその次ハ百里とすその
次の百里ハ九と遠方より甲とすりて
采とす賦とす又邦畿の外五百里と候服と
す諸大夫卿男の領地なりその外ハ三百里ハ大小候
の領分とす又右候服より外五百里と綏服乃地
と内三百里とすハ文字の教と以てたす度ら
れは次ハ二百里ハ武威と奮衛里國民とす
たりとすは綏服の外五百里とす要服と
名づく要約羈縻とすは必竟とす
あまうたり夷と浪とすその次の二百

東海于漸西流
沙于被南聲教
暨四海于訖
禹玄主錫厥
成功と告

里の三百里の治... 蔡... 國とやう...
扱... その次の五百里と荒服と名づく...
時々来朝... その外二百里と流...
人と流と總計... 王城と中...
百里... 東西南北五千里四方...
強成... 五千里に至...
紛々... 記... 作文の例多し...
○東

漸于海西被于流沙
朔南暨聲教訖
于四海禹錫玄主告厥成功
今の朝鮮
漸... 朔... 暨... 訖...
禹... 錫... 玄... 主... 告... 厥... 成... 功...
今の朝鮮

甘誓
大に甘于戰
乃ら六卿を召
王の曰く嗟六事
之人予誓言て汝
告有扈氏五
行と威侮
正と怠棄と天
用其命を勳
絶と今予惟恭
行ふ
天之罰と

甘誓
邑扈氏謀叛...
地... 於て軍法の誓言と...
大戦于甘乃召六卿王曰嗟六事之
人予誓告汝有扈氏威侮五行怠棄
三正天用勳絶其命令予惟恭行天
之罰
天子征伐...
六軍の六卿...
王召よせ...
の事...
あり水火金木土乃五行と侮...
天命...
勳絶...
予

左于左于と攻先
不汝命と恭ま
攻め不汝命を
其馬之正非と
予則汝と撃
戮せん

恭命御非其馬之正汝不恭命用命
賞于祖不用命戮于社予則撃戮汝
古に多く車戦の戦ひなり車の上は大將三人は
一人は左に在り右に在り用ゆ右に戦と用ゆ中
央に前より馬と御し車と進退し今日戦
ひに此全く射手乃りの命とあらざるは攻めざる
の右の備なりとのいざらざるは攻めざるは
大將の命と恭まざるは攻めざるは馬の法乃
正し御者乃りの不埒なるは左右正尚三方
に二十四人づの士卒を合し車の上の三人の長

五子之歌

太康尸位逸豫と
以て厥徳と滅す
黎民咸貳と
乃盤遊度
無有洛之表于
敗して十旬及
弗有窮の後羿
民の及弗と因て
河于距

五子之歌
禹王の皇孫太康
の及不徳と後善君
と七十五人と一車の兵と右の人數大將の命と
守る先祖廟前乃庭に於て思賞とす
妻孥等しいと刑戮を施す

太康尸位以逸豫滅厥徳黎民咸貳
乃盤遊無度敗于有洛之表十旬弗
反有窮后羿因民弗忍距于河
天子の位と尸とるは天下の政務とす
逸豫は長に長に君するは徳
と消滅しこれに因り黎民は貳心あり然
し洛水乃表とす敗獵たりと無度く
盤遊は十旬が都に及り反り此
虚と乗し有窮の君名を羿とす人むとれ

厥第五人其母
御其母以從
洛之汭于後五
子咸怨大禹之
戒述以作歌
と作ふ

其一曰皇祖訓
有民近不可
下不可不民惟
邦之本固
邦寧予天下
と視愚夫愚婦

今の帝王と不徳うしゆん民の
の不仁をうしに忍ぶるはとふまに示し
と洛水に踏みし帝をよこす
○厥第五人

御其母以從
洛之汭于後五
子咸怨大禹之
戒述以作歌
○其二

曰皇祖有訓
民可近不可
下民惟邦
本固邦寧
予視天下
愚夫愚婦
一能勝予
一人三失
怨豈在明
不見是

能勝予一人三失怨豈在明不見是

能予又勝
一人三失怨
豈明在んや見
不是圖予兆
民臨凜乎と
朽索之六馬
と駟若
人の上為者奈
何と敬せん

其二曰訓
有内色荒
外禽荒
作

圖予臨兆民凜乎若朽索之駟六馬
為人上者奈何不敬
○其二曰訓有之内作
色荒外作禽荒甘酒嗜音峻宇雕牆

酒と甘と音と
嗜と峻宇雕牆此
于一も有亡び不
と或未

其三曰く惟彼
陶唐此冀方と有
今厥道と失い其
紀綱と乱る乃ら
滅亡と底と

其四曰く明明
不我祖萬邦之君
典有則有其子孫
貽と關石和鈞

王府則有厥緒と
荒墜して宗と覆
へ一祀と絶

其五曰く嗚呼
曷ん歸ん予之
と懐て悲ひ萬姓
予と仇と予將
疇よ依鬱陶乎
予心顔厚
怙怩と予有厥
徳と慎弗悔と雖
も追可んや

有二于此未或不亡

○其三日惟彼陶唐有此
冀方今失厥道亂其紀綱乃底滅亡

○其四日
明明我祖萬邦之君有典有則貽厥
子孫關石和鈞王府則有荒墜厥緒

覆宗絶祀
先祖禹王の明々たる徳を以て天
下万の邦を君とすなり其の典則
と子孫を貽めたる一典の經書なり則に洪令の
定めり石の重り百二十斤あり鈞の三十斤なり
鈞兩と正一方々關一通トも甲ひたり和平と
此事王府の早くそとつりありありとあり太康
の帝の緒たつたにその徳と荒墜してハ祖宗と
覆ぐへ一祀といふと絶つるなり

○其五日嗚呼曷歸予懐之悲萬姓
仇予予將疇依鬱陶乎予心顔厚有

怙怩弗慎厥徳雖悔可追

胤征

胤征 惟仲康肇于四海 又位胤侯命 掌六師義和 義和其職 廢厥職于酒 荒胤后王命 承て徂征す

衆于告て曰く嗟 予有衆聖に謨 訓有明徵 定保先克 天戒と謹て臣人

胤征

胤征 胤と國の名なり 仲康はつとて六 軍の兵と掌とる 帝の詔と受け

惟仲康肇位四海胤侯命掌六師義

和廢厥職酒荒于厥邑胤后承王命

徂征 仲康と禹王の孫と 兄太康の位と 承て征す

命予有衆聖に謨訓有明徵定保先

王克謹天戒臣人克有常憲

告于衆

胤征 胤と國の名なり 仲康はつとて六 軍の兵と掌とる 帝の詔と受け

克常憲有

百官修輔厥 后惟明々

每歲孟春適人 木鐸と以て路于 徇官師相規 工藝事と執 以て諫其不恭 或の邦に常刑有

胤征 胤と國の名なり 仲康はつとて六 軍の兵と掌とる 帝の詔と受け

○百官修輔厥后惟明

○每歲孟春適人以木鐸徇于路官

師相規工執藝事以諫其或不恭邦

有常刑

胤征 胤と國の名なり 仲康はつとて六 軍の兵と掌とる 帝の詔と受け

惟時義和厥德と
顛覆一酒于沈亂
寸官と畔と次と
離と倂と天紀と
擾る厥司と遐棄
と乃ち季秋月
朔辰房于集弗
馨鼓と奏と壹夫
馳庶人走ふ義和
其官と戸とりて
聞知罔天象于昏
迷して以て先王
之誅と于と

惟時義和。刑罰の常法として、
顛覆厥德。酒を沈亂に
于房。馨鼓を奏し、壹夫
厥官罔聞。知を昏迷して、
之誅。義和の官に居る者、
次位と依る日食の變と、
と奏し、壹夫と神と、
ののち先王の誅と、

政典に曰く時と
先と者殺て赦
とと無時と及不
者殺て赦はと無
今予爾有衆以
て天罰と奉將
爾衆士カと王室
に同ふして尚く
予と弼欽んで天
子の威命と承

政典曰。先時者殺無赦不及
時者殺無赦。今予以爾有衆奉將天
罰。爾衆士同力。王室尚弼。予欽承天
子威命。
夏の代は政事の典を時節とし、
文官と殺て赦と、
以て義和氏と、
こゝに奉將のあり、
室と欽んで承て、
火

石俱に焚天吏の
逸德猛火于烈厥
渠魁と殲て脅從
治うと罔舊染
汗俗咸與に惟
新す

嗚呼威厥愛
克允濟愛厥
威克允功罔
其再衆士懋
戒哉

炎崑岡玉石俱焚天吏逸德烈于猛
火殲厥渠魁脅從罔治舊染汗俗咸
與惟新天統の仁惠
とくごうのたつたといふ火のついで昆山の岡とやく時八玉
も石とあつたをく焚はくぬ天子の官吏いり
とあり徳は逸くそげしき時中々のゆふの人の猛
りりといふふりていふぬぬる渠魁と義和乃
四家と殲滅し脅從をくくく徒黨乃りのら
一々いりていり治うといふこととていふこととていふこと
舊く染ま汗れ風俗もやぶく
○嗚乎威
克厥愛允濟愛克厥威允罔功其爾
衆士懋戒哉威とつて人権威のくくく身と正しくくくく身と

愛の功も濟成
威の功も克
衆士の懋
再

書經卷之二終

